



AKITA

〔4月〕

県内経済

概況

県内経済は、全体として持ち直しの動きが続いている

電子部品、機械金属の生産は弱含んでいるが、木材は持ち直している。建設は、公共工事が前年を下回ったが、住宅着工は増加傾向で推移している。個人消費は持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善傾向にあるが、一部業種では人手不足が深刻化している。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、スマートフォン向けが中国市場の低迷などから減少傾向が続いているほか、車載向けにも減速感がみられ、2か月連続で前年を下回った。機械金属の生産額は、輸送機械で一部メーカーによる完成車の不正検査問題が影響し、3か月ぶりに前年を下回った。木材は、製材品の生産量が3か月連続で前年を上回り、持ち直しの動きが続いている。公共工事請負額は、国や県が減少し、3か月ぶりに前年を下回った。地元大手(12社)の建設受注額は、官公庁工事、民間工事ともに増加し、2か月ぶりに前年を上回った。

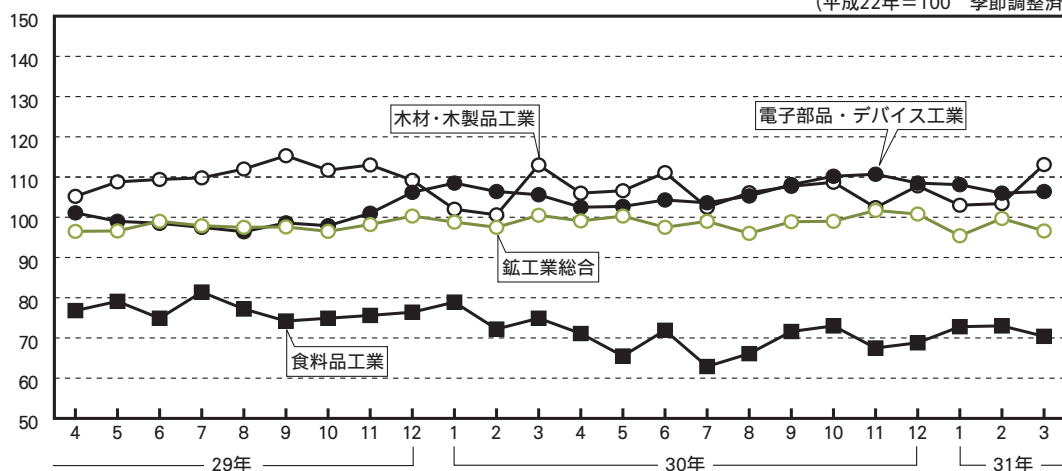
住宅着工は持家が増加傾向にあるほか、分譲住宅でマンション着工もあり、5か月連続で前年を上回った。個人消費は、小売店販売額(3月)、新車乗用車販売台数がともに前年を上回り、全体として持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.01ポイント上昇の1.53倍となった。新規求人数は前年比1.4%増となり、2か月ぶりに増加した。事業主都合離職者数は19.6%減となり、2か月連続で前年を下回った。

企業倒産件数は2件、負債総額は1億5,900万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(平成22年=100 季節調整済)



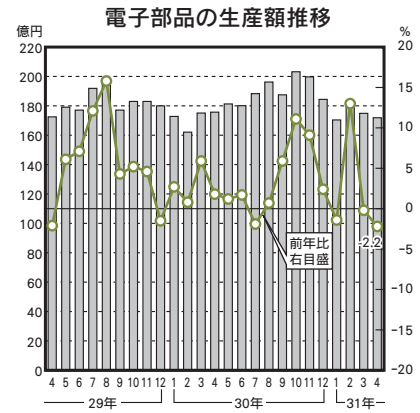
資料：秋田県調査統計課

## 電子部品

生産額、2か月連続で前年を下回る

4月の生産額は前年比2.2%減と2か月連続で前年実績を下回った。スマートフォン向けは中国の消費低迷などから市場全体が停滞しており減少傾向が続いている。電装化や先進運転システム（ADAS）などの技術革新が進む車載向けは高水準を保っているものの、中国経済減速の影響などから、伸びが鈍化してきている。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやインダクタは堅調に推移しているものの、好調だった半導体素子は減少に転じており、産業向け液晶パネルも減少に歯止めがかかっていない。



(当研究所調べ、県内4社)

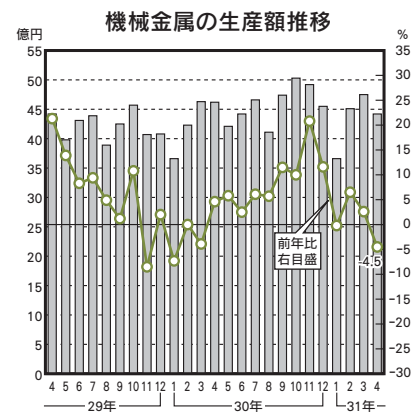
## 機械金属

生産額、3か月ぶりに前年を下回る

4月の生産額は前年比4.5%減と3か月ぶりに前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械において、自動車部品の生産が減少したことが影響した。北米向けは依然好調が続いているものの、メーカー1社で完成検査のデータ書き換えや無資格者検査が発覚し、生産額が落ち込んだ。

輸送機械以外の民需関連では、製鋼品は減少に歯止めがかかっておらず、好調だった金型、建機部品も減少に転じた。公共工事関連では、水道部品は堅調に推移しているものの、橋梁・鉄骨は減少が続いている。



(当研究所調べ、県内8社)

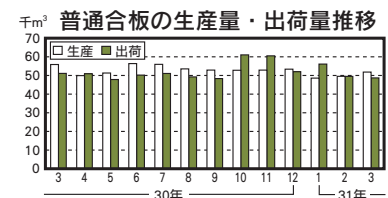
## 木材業

製材品は引き続き持ち直しの動き

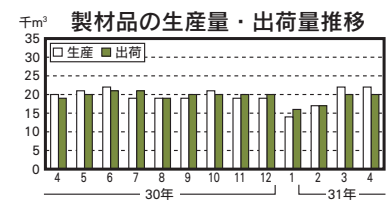
全国的には、新設住宅着工件数の堅調推移が続く中、普通合板、製材品とも出荷量は前年を上回って推移しているが、県内においては、普通合板が前年同時期に高水準であったこともあり、出荷量、生産量とも前年割れの推移となっている。

3月の普通合板は、生産量が前年比7.3%減と7か月連続で減少し、出荷量も同4.7%減と2か月連続で前年を下回った。在庫量は前月より増加し、同11.8%増と21か月連続で前年を上回ったが、増加率は前月より縮小した。

4月の製材品は、生産量が前年比10.0%増、出荷量は同5.3%増と、引き続き持ち直しの動きが続いている。



資料：秋田県農林水産部林業木材産業課



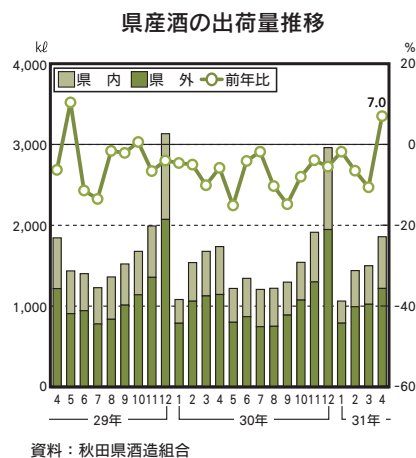
資料：農林水産省「製材統計」

## 酒造業

### 出荷量、18か月ぶりに前年比増加

4月の清酒出荷量は、10連休に向けて出荷が急伸び、前年比7.0%増と18か月ぶりに前年を上回った。出荷先別では、県内向けは同7.9%増、県外向けも同6.6%増となった。県外の主な出荷先別では、東京が同8.0%増、東北5県は同6.5%増、北海道も同3.8%増となった。種類別では、普通酒は同7.2%増、特定名称酒も同6.9%増と、ともに前年を上回った。

平成30酒造年度全国新酒鑑評会で、本県から出品された清酒23点が入賞し、そのうち18点が金賞を受賞した。金賞数は前年の13点から5点増加し、全国順位は福島県（22点）に次ぐ2位となった。



## 建設業

### 公共工事 国や県が減少し、3か月ぶりに前年比減少

4月の公共工事請負金額は、独立行政法人や市町村等が増加したものの、国や県が減少し、前年比1.2%減と3か月ぶりに前年を下回った。

一方、当研究所調査による地元大手12社の4月の新規受注額は、前年比43.6%増の2,327百万円と2か月ぶりに前年を上回った。うち官公庁工事は、農業水利事業や河川の災害復旧工事など土木工事が大半を占め、同16.4%増と伸びた。民間工事も、社会福祉施設の新築や寺社の建物改修等の大口受注があり、同80.4%増と前年実績を大きく上回った。

#### 公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	件数	前年比	請負金額	前年比
4月	338	△1.2	26,106	△1.2

資料：東日本建設業保証(株)秋田支店

#### 地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	4月	前年比	31/1~31/4月	前年同期比
官公庁	1,084	16.4	7,374	△4.5
民間	1,243	80.4	3,242	56.7
合計	2,327	43.6	10,616	8.4

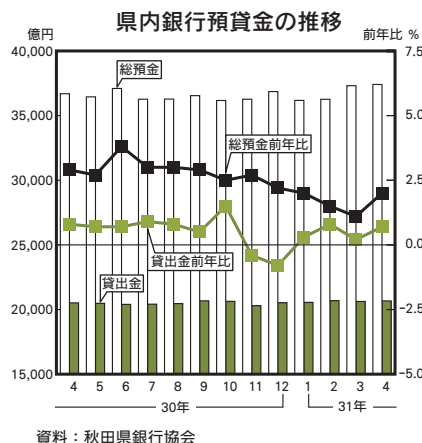
(当研究所調べ、県内12社)

## 金融

### 預金、貸出金とも前年比増加率が拡大

4月末の県内銀行の預金は、前月末比96億円増加し、前年比でも2.0%の増加となった。貸出金は、前月末比44億円増加し、前年比でも0.7%の増加となった。預金、貸出金とも前年を上回って推移しており、伸び率も前月に比べ拡大した。

4月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は2件(前年比横這い)、負債総額は1億5,900万円となった。倒産件数は平成24年11月以降78か月連続で低水準が続いている。負債総額も、前年同月が少額であったため前年比87.1%増となったが、負債額としては依然低水準にとどまっている。



## 住宅着工

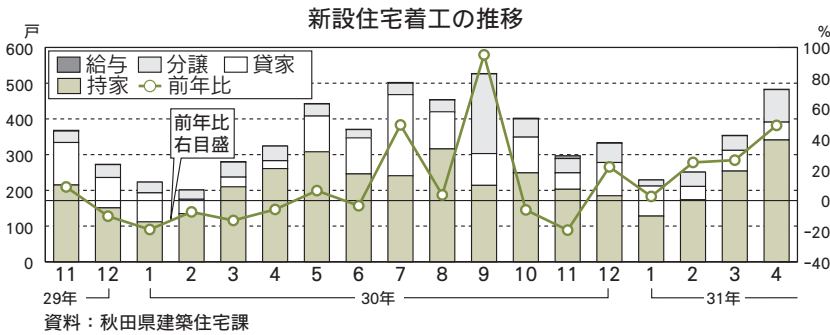
### 着工戸数、5か月連続で前年比増加

4月の県内新設住宅着工戸数は、483戸（前年比159戸増、49.1%増）であった。主力である持家のほか、貸家、分譲住宅、給与住宅の全てが前年を上回り、5か月連続で前年比増加となった。

利用関係別では、持家が341戸（前年比80戸増）、貸家が50戸（同28戸増）、分譲住宅が91戸（同50戸増）、給与住宅が1戸（同1戸増）となっている。

持家は消費税引上げ前の駆け込み需要もあり、5か月連続で前年を上回った。貸家は秋田市や横手市などで民間の賃貸住宅が増加し、2か月連続で前年を上回った。分譲住宅は横手市でマンション着工（54戸）があり、2か月ぶりに前年を上回った。

地域別では、県北・県央・県南の全地域で前年を上回った。全地域で持家と貸家が増加したほか、県南は分譲住宅も増加した。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	31年4月	前年比	31年1~4月	前年比
県北	82	12.3	259	19.4
県央	223	34.3	681	16.6
県南	178	109.4	377	66.1
合計	483	49.1	1,317	28.1

資料：秋田県建築住宅課

## 個人消費

### 持ち直しの動き

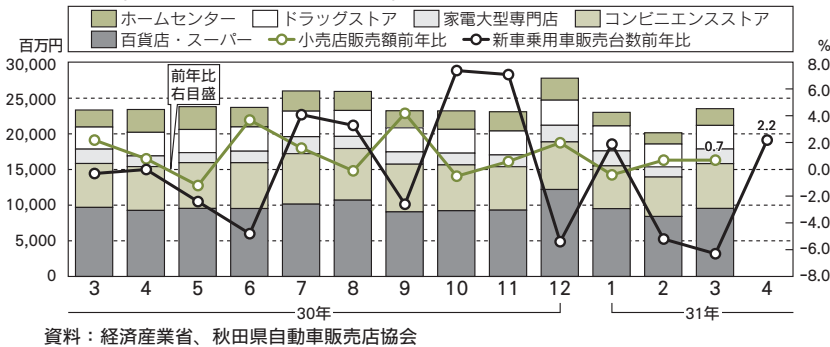
3月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、合計で前年比0.7%増となり、2か月連続で前年を上回った。ホームセンター（同1.8%減）などで減少したものの、ドラッグストア（同7.0%増）、コンビニエンスストア（同2.0%増）、家電大型専門店（同1.8%増）で増加した。

百貨店・スーパー販売額は、前年比1.8%

減となった。衣料品は、紳士服・婦人服ともに振るわず、2か月ぶりに前年を下回った。飲食料品も低調に推移し、6か月連続で前年を下回った。

4月の新車乗用車販売台数は、前年比2.2%増の2,869台となった。登録車で減少したものの、軽乗用車で増加し、3か月ぶりに前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



4月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,869	2.2
登録車	1,569	△1.4
普通車	654	9.9
小型車	839	△9.4
輸入車	76	7.0
軽乗用車	1,300	7.0

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	1月	2月	3月
①消費者物価指数	0.4	0.1	0.5
②勤労者名目賃金	△6.2	△5.5	△7.0

資料：①秋田県（総合指数、秋田市）  
②秋田県（事業所規模5人以上）

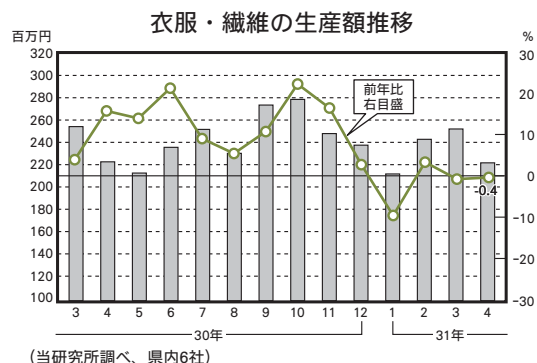


## 衣服・繊維

### 生産額、2か月連続で前年比減少

4月の生産額は、前年比0.4%減となった。夏物の生産がピークを迎えているが、追加生産の減少など生産調整が入り、2か月連続で前年を下回った。

受注も、先行きの不透明さが続いていることから動きは鈍く、3か月ぶりに前年を下回った。



## 雇用

### 有効求人倍率は1.53倍、高水準続く

4月の有効求人倍率は、前月比0.01ポイント上昇の1.53倍となり、高水準が続いている。常用の内訳では、一般は前月比0.04ポイント低下の1.28倍、パートは同0.17ポイント低下の1.36倍となった。

新規求人数は前年比1.4%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。産業別にみると、製造業は同9.8%減となった。「木材・木製品」で横這いとなったものの、「情報通信機械」、「電子部品・デバイス・電子回路」、「繊維」で二桁の減少率となったほか、その他の業種でも減少した。非製造業は同2.7%増となった。「情報通信」、「生活関連サービス、

娯楽」、「宿泊、飲食サービス」などで減少したものの、「運輸、郵便」で大幅に増加したほか、「医療、福祉」、「建設」、「卸売、小売」でも増加した。

新規求職者数は前年比4.6%減と、2か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は、前年比19.6%減となり、2か月連続で前年を下回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南の全地域で増加した。有効求人倍率は県北が最も高く1.48倍、県南が1.31倍、県央が1.24倍となった。

#### 業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

区 分		31年3月		4月	
			前年比		前年比
新	規 求 人 計	9,708	△9.6	9,284	1.4
	製 造 業	885	△15.0	880	△9.8
主 要 業 種 の 内 訳	食 料 品	151	15.3	222	△7.5
	織 維	199	1.0	158	△11.2
	木 材 ・ 木 製 品	32	△11.1	45	0.0
	電 子 部 品 ・ デ バ イ ス ・ 電 子 回 路	85	△52.0	75	△37.0
	電 気 機 械 器 具	43	△46.3	51	△1.9
	情 報 通 信 機 械	4	△73.3	12	△42.9
	非 製 造 業	8,823	△9.1	8,404	2.7
	建 設	1,112	1.0	1,052	7.3
	情 報 通 信	55	31.0	54	△26.0
	運 輸 ， 郵 便	347	△21.1	477	31.0
卸 売 ， 小 売	1,430	△9.6	1,630	6.5	
宿 泊 ， 飲 食 サ ー ビ ス	1,272	△10.0	792	△12.2	
生 活 関 連 サ ー ビ ス ， 娯 楽	374	△35.5	340	△14.1	
医 療 ， 福 祉	1,765	△0.7	1,952	10.8	
サ ー ビ ス	1,139	△13.7	1,079	△8.0	
新 規 求 職 者 数		4,758	△6.6	5,793	△4.6
有 効 求 職 者 数		17,320	△1.0	17,816	△1.7

資料：秋田労働局職業安定課  
(注) 臨時・季節を含む。

#### 有効求人倍率および事業主都合離職者数

区 分		31年1月 2月 3月 4月			
有 効 求 人 倍 率	常 用	1.46	1.37	1.32	1.28
	パ ー ト タ イ ム	1.55	1.57	1.53	1.36
	全 数 (季 調 済)	1.52	1.56	1.52	1.53
事業主都合離職者数		184	194	231	446
前 年 比		17.2	20.5	△16.9	△19.6

#### 4月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比		前月比	
県 北	2,120	5.4	1.48	△0.06
県 央	4,041	5.2	1.24	△0.11
県 南	2,317	5.5	1.31	△0.05
合 計	8,475	5.3	1.31	△0.08

(注) 臨時・季節を除く。